

The Children's Hospital of Philadelphia

遠藤 誠之

フィラデルフィア国際空港から、車をセンターシティへ向かってハイウェイを走らせる。プロバスケットボールのチーム名にもなっている76号線を北上する。センターシティの摩天楼がちょうど正面に見えるようになる頃、右手に市内を南北に流れるスクールキル川を眺めながら、左手の丘の上に巨大な建物群がそびえ立つのが目に入る。それがフィラデルフィア小児病院とペンシルバニア大学で構成される巨大医療センター群である。

フィラデルフィア小児病院。The Children's Hospital of Philadelphia。略してCHOP(チョップ)と呼ばれている。1855年に設立された、アメリカで最も古い小児病院である。全米ランキングでも毎年1位、2位にランキングされるトップ小児病院である。そのなかの1部門である胎児診断治療センターでは、小児外科医Dr. N. Scott Adzickをセンター長として、胎児期に診断される様々な胎児疾患に対して最先端の治療を施すことができる。例えば、胎児期に見つかった脊髄髄膜瘤に対して、妊娠子宮から胎児を取り出して脊髄髄膜瘤を外科的に閉鎖し、再度子宮内へ戻して神経機能を温存させる、胎児期脊髄髄膜瘤手術の有効性をランダム化比較試験で実証した。そして、その研究部門であるCenter for Fetal Researchでは、胎児期幹細胞移植や胎児期遺伝子治療、さらに最近では人工子宮の開発など、胎児治療に関する最先端の研究を推し進めている。

Endo, Masayuki

大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学教室 講師
Senior Lecturer, Obstetrics and Gynecology,
Faculty of Medicine, Osaka University
E-mail : endo@gyne.med.osaka-u.ac.jp

る。私は、2年間の胎児診断治療センターでの臨床研修期間も含めて考えると、合計7年間でフィラデルフィアで、CHOPで、そしてCenter for Fetal Researchで過ごした。

Center for Fetal Researchのボスが、小児外科医のDr. Alan W. Flakeである。アーカンソー州出身の長身の白人だ。父親は米軍の空軍所属で、高校生の頃には台湾に住んでいた。今は髪は薄くなってきているが、台湾に住んでいた頃は、髪はフサフサで、しかもアフロヘアだった。かなり血気盛んなヒッピー風の若者だったらしい。ひよんなことからテコンドーを高段者から習得し、かなりの腕前だったそう。ある時、Alanはテコンドーの大会に出ることになったが、周りはずべて台湾人で、たった一人の外人として、大会に乗り込んでいった。白人の長身の若者で、アフロヘア。ちょうど時代は、ブルース・リーの「燃えよドラゴン」が世界を席卷していた頃だったので、会場は異様な熱気に包まれたらしい。結果はAlanの大勝利で、プーイングの嵐だったそう。Alanが小児外科医でありながら、研究の道に本格的に入ったのは、UCSF(カリフォルニア大学サンフランシスコ校)で外科レジデントをしていた時の研究期間中に、ヒツジを用いた胎児期ヒト血液幹細胞移植実験でScience誌に掲載されるような研究成果を出したのがきっかけだった。その頃のUCSFは小児外科教授のDr. Michael Harrisonが先天性横隔膜ヘルニアに対する胎児治療の研究を行っていた、胎児治療に関しては世界のメッカであった。現在のCHOPの胎児診断治療センターの大ボスである小児外科医Dr. N. Scott Adzickもその時、Alanの先輩と